

事業所名 グループホーム あいあい
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年12月 2日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員、介護事業所管理者
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 自営業
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

大小の島々が織り成す海辺の街日生にホームはある。ホームからは、静かな入り江が望め、直ぐ近くには備前市の文化施設等もあり、落ち着いた環境の中で入居者は生活している。

近くの医療機関や備前市の総合病院とのしっかりとした医療連携が出来ている。緊急時には、24時間対応してもらえる。毎週、往診もあり、入居者の健康管理についても専門的な指導が受けられ、入居者・家族ともに安心が得られる。

入居者個々の特性・生活歴・趣味・能力を全職員がしっかりと把握している。入居者の担当を順番に交代して総ての入居者の状況や個性をしっかりと理解し、全職員の統一した介護を継続して提供している。

職員は、「皆さんと共に」を標榜とし、時間の許す限り入居者とのコミュニケーションを大切にしている。食事については、家庭的な食事の提供をモットーとし、献立は特に決まらずに職員・入居者が相談して決め、瀬戸の恵みいっぱい海の幸等新鮮な食材を使い、入居者の健康な生活を支えている。

職員の態度は穏やかで、入居者に対する接遇も丁寧で、入居者の表情も明るく、活発に話をされている。「わきあいあい」の雰囲気溢れているグループホームである。

特に改善の余地が有るとと思われる点(記述)
提案として、
地域のボランティアが草刈りに来てくださる等、開かれたグループホーム作りへの努力が実りの根を下ろし始め、地域密着型のホームとしての信頼を拡大し、「あいあい」が地域にとって必要不可欠な社会資源として機能している。また、ホームスタッフのチームケアについては、鋭意努力が積み重ねられており、その実績も上がっている。その日々の取り組み等を確実に記録に残し、より一層ケア質の向上に活かすためにも、今後の記録類の整理に今一つの努力を期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>代表者やホーム長・職員は、和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中で、その人らしい尊厳と安らぎのある共同生活を目指して研鑽を続けている。</p> <p>「おはよう」「こんにちは」と挨拶を交わし、笑顔で一日を明るく元気で過ごせるように、嬉しい事も楽しい事もみんなで一緒に分かち合い、「もうひとつの我が家」として同じ家族となることを目指している。</p> <p>入居者がかつて持っていた能力・意欲を再開発し、人はいつまでも進歩する可能性があるとして、その人の眠っている力を引き出すことが出来るように支援している。</p> <p>入居者の個性を重んじ、特に食事はホーム生活の大きな要素としている。職員は、入居者の希望を聞きながら一緒に献立を考えるようにしており、一人ひとりと向き合える家庭的な環境の提供を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・うれしい事もたのしい事も皆と一緒に心安らかに過ごせるように、入居者の精神的安定と充足感が持てる暮らしを支援している。</p> <p>・日常生活がマンネリにならないよう、自由な時間の流れの中でも一日を規則正しく趣味等で楽しく過ごし、落ち着いた気持ちで生活できるように配慮している。</p> <p>・おしゃべりしたり歌を唄ったりと、レクリエーションを積極的に行い、入居者が生き生きと活性化して暮らせるように取り組んでいる。</p> <p>・担当制を設け、入居者と密接に関わることで入居者の今現在の暮らしを守り、支えている。また、穏やかにゆっくり入居者の話を聞き、入居者との心と心のつながりを深める努力をしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>職員は、入居者それぞれの経歴・能力を把握し、その内容は全職員で共有してホーム生活の中で本人の特性・意向を生かすように努めている。</p> <p>職員は入居者の人格・プライバシーを尊重し、「～さん」と尊称で呼び掛け、居室にはノックをして許可を得てから入っている。本人の現実を受け入れ、個人のプライバシーと尊厳に配慮して支援している。</p> <p>個人に関する守秘義務を厳守し、個人の記録類は事務所内で散逸しないように管理し、個人情報漏れることがないよう徹底している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>外部研修を始め、内部での勉強会を積極的に進め、接遇等についての理解を深めている。認知症専門士の資格を持っているケアマネジャーの指導により、認知症への理解を深め、介護資質の向上に努力している。</p> <p>全国認知症グループホーム協会に加入し、その会合へ出席して最新の情報を収集している。ビジネスコミュニケーション等、仕事のうえで必要なコミュニケーションスキルを職員全員が学び、介護内容の充実につなげている。</p> <p>「感染症マニュアル」「食中毒衛生管理マニュアル」を設定し、外から帰って来た時にはうがい・手洗い・消毒を徹底し、食中毒や感染症を起こさないよう、入居者・職員の衛生管理には特に留意している。</p> <p>事故はもとより、ヒヤリハットも含めて全てを記録している。入居者の家族にも連絡し、発生原因をよく検討して全職員に周知し、情報を共有して再発防止に努めている。</p>		